

### 3 全体計画と今年度の位置づけ

本調査は、5年間での調査を予定しており、年度毎に取得データ等に差が生じないようにする必要のあることから、昨年度に調査方法等も含めた低密度植栽技術の指針策定までの工程について、5年間の全体計画を作成した。また、一般的な低密度の試験植栽におけるコンテナ苗の導入に当たって使用される苗は、樹種や地域により異なるが、例えばスギの場合は、汎用性の高い「30～60cm コンテナ苗（150cc または 300cc マルチキャビティ使用）」を用いることが多く、1,000～2,000 本/ha 程度の密度にて植栽する場合が多い。そこで、このような実績や地域における汎用性、特性（社会環境・自然環境等）に配慮される5年間計画が策定された。

なお、より低コスト化を目指すため、スギ「大型 90～100cm 程度のコンテナ苗」の生産と低密度植栽（1,000～1,200 本/ha 程度）の導入の可能性についても、5年間かけて検討及び実証を行い、大型苗植栽技術の導入に伴う成果（下刈り回避によるコスト削減とシカ食害対策の軽減）及び課題（苗木代と植栽植穴施工負担によるコスト増加等）の整理を行うため、大型コンテナ苗の生産と実証事業の実施もこの5箇年計画に組み込んでいる。

本年度は5年間計画の2年目であり、昨年度に引き続き、文献や既存植栽地の情報収集、低密度植栽の実証調査を行い、昨年度に設定し実証調査を行った試験地の追跡調査、及び下刈りを実施し、データを整理する。また、スギの大型コンテナ苗の植栽試験を開始し、下刈り回避によるコスト削減とシカ食害対策の軽減を目指す。

これらの成果を整理、分析し5年間の全体計画の最終成果は、低密度植栽技術を地域に普及させるための施業指針とパンフレット原稿を作成するものとする。表 3.1、図 3.1 に5年間の全体計画を示す。

表 3.1 5年間の全体計画

調査項目	1年目 (平成27年度)	2年目 (平成28年度)	3年目 (平成29年度)	4年目 (平成30年度)	5年目 (平成31年度)
1. 全体計画策定	i 全体計画の策定				
2. 現状の分析と評価	ii 現状の分析と評価（含む既往文献調査）	i 現状の分析と評価（含む既往文献調査）			
3. 低密度植栽技術の実証	iii 低密度植栽技術の実証の開始（①）	ii 実証箇所（①）の調査と調査結果の整理分析 iii 低密度植栽技術の実証の開始（②）	i 実証箇所（①②）の調査と調査結果の整理分析 ii 低密度植栽技術の実証の開始（③）	i 実証箇所（①②③）の調査と調査結果の整理分析	i 実証箇所（①②③）の調査と調査結果の整理分析及び評価
4. 大型コンテナ苗の導入に向けた検討	iv 大型コンテナ苗の導入の検討と大型コンテナ苗の試行的生産の開始	iv 大型コンテナ苗の試行的生産と、生産に係る課題の整理 v 大型コンテナ苗の導入による低密度植栽技術の実証の開始（④）	iii 大型コンテナ苗の生産技術の整理 iv 大型コンテナ苗の導入の実証箇所（④）の調査と調査結果の整理と分析	ii 大型コンテナ苗の導入の実証箇所（④）の調査と調査結果の整理と分析	ii 大型コンテナ苗の導入の実証箇所（④）の調査と調査結果の整理と分析及び評価
5. 低密度植栽施業指針の検討	vi 低密度植栽施業指針（方向性）の検討	vi 調査分析結果を受け修正した低密度植栽施業指針（方向性）の検討	v 調査分析結果を受け修正した低密度植栽施業指針（方向性）の検討	iii 地域特性に応じた低密度植栽施業指針の検討	iii 地域特性に応じた低密度植栽技術導入のための低密度植栽施業指針の作成 vi 林業技術者向けパンフレット原稿の作成



※④については、大型コンテナ苗の植栽準備が整ったため、2年目からの実証試験を開始した。

図 3.1 5年間の全体計画